

[附表] 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
耐震診断の方法の名称		(※) 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。 いずれの区分に該当する場合であっても、建築に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度7強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれではなく、倒壊するおそれはない。		
		I 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	II 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	III 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
別表1				
別表1-1	指針第1第一号に定める建築物の耐震診断の方法	$I_w < 0.7$	$0.7 \leq I_w < 1.0$	$1.0 \leq I_w$
別表1-2	指針第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	$I_s < 0.3$ 又は $\alpha < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s \leq 0.9$ $1.0 \leq \alpha$
別表1-3	指針第1第三号に定める建築物の耐震診断の方法	—	基準に適合しない	基準に適合する
別表2				
1	「公立学校施設に係る大規模地震対策関係法令及び地震防災対策関係法令の運用細目」(昭和55年7月23日付け文官第217号文部大臣裁定)	$I_s < 0.3$ 又は $\alpha < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s \leq 0.9$ $1.0 \leq \alpha$
2	一般財団法人日本建築防災協会による「木造住宅の耐震診断と補強方法」に定める「一般診断法」及び「精密診断法」(時刻應答合算による方法を除く。)	上部構造評点<0.7	$0.7 \leq$ 上部構造評点<1.0	1.0≤上部構造評点
3-1	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1978年版)	$V_R/V_I < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 < V_R/V_I$
3-2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $\alpha < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s \leq 0.9$ $1.0 \leq \alpha$
4-1	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
4-2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
5-1	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1977年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
5-2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.3 \leq C_1 \cdot S_0 \leq 1.25$ $1.25 < C_1 \cdot S_0$
5-3	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T0} \cdot S_0$
5-4	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
5-5	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合 $I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T0} \cdot S_0$
		鉄骨が非充腹材の場合 $I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T0} \cdot S_0$
5-6	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合 $I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{T0} \cdot S_0$
		鉄骨が非充腹材の場合 $I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{T0} \cdot S_0$
6	一般社団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Qu / (\alpha \cdot Qu_n) < 0.5$	$0.5 \leq Qu / (\alpha \cdot Qu_n) < 1.0$	$1.0 \leq Qu / (\alpha \cdot Qu_n) \geq G_s < 1.0$ $1.0 \leq G_s$
7	「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_s < 0.3$ 又は $\alpha < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq I_s \leq 0.9$ $1.0 \leq \alpha$
8	一般社団法人プレハブ建築協会による「木質系工業化住宅の耐震診断法」	上部構造評点<0.7	$0.7 \leq$ 上部構造評点<1.0	1.0≤上部構造評点
9	一般社団法人プレハブ建築協会による「鉄骨系工業化住宅の耐震診断法」	$P/Q < 0.5$	$0.5 \leq P/Q < 1.0$	$1.0 \leq P/Q$
10-1	一般社団法人プレハブ建築協会による「コンクリート系工業化住宅の耐震診断法」のうち大型コンクリートパネル造建築物に対する耐震診断の方法	$Qu/Qu_n < 0.5$	$0.5 \leq Qu/Qu_n < 1.0$	$1.0 \leq Qu/Qu_n$
10-2	一般社団法人プレハブ建築協会による「コンクリート系工業化住宅の耐震診断法」のうちリブ付中型コンクリートパネル造建築物に対する耐震診断の方法	$Qu/Qu_n < 0.5$	$0.5 \leq Qu/Qu_n < 1.0$	$1.0 \leq Qu/Qu_n$
		換算壁量×基準壁量/2	基準壁量/2 ≤ 换算壁量 < 基準壁量	基準壁量 ≤ 换算壁量
10-3	一般社団法人プレハブ建築協会による「コンクリート系工業化住宅の耐震診断法」のうち臥梁付中型コンクリートパネル造建築物に対する耐震診断の方法	換算壁枚数×基準壁枚数/2	基準壁枚数/2 ≤ 换算壁枚数 < 基準壁枚数	基準壁枚数 ≤ 换算壁枚数
		$Qu/Qu_n < 0.5$	$0.5 \leq Qu/Qu_n < 1.0$	$1.0 \leq Qu/Qu_n$
		換算壁量×基準壁量/2	基準壁量/2 ≤ 换算壁量 < 基準壁量	基準壁量 ≤ 换算壁量
11	一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式フレキキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
		$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T0} \cdot S_0 < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so} \leq 0.3 \leq C_{T0} \cdot S_0$
12	一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式フレキキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第2次診断法	—	—	要件を全て満たす
13	一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式鉄筋コンクリート造等の建築物の簡易耐震診断法」	—	—	耐震診断基準に適合しない
14	一般財団法人日本建築防災協会による「既存ブロック塀等の耐震診断基準・耐震改修設計指針・同解説」に定める耐震診断基準	—	—	耐震診断基準に適合する
15	建築物の構造耐力上主要な部分が昭和56年6月1日以降におけるある時点の建築基準法(昭和25年法律第201号)並びにこれに基づく命令及び条例の規定(構造耐力に係る部分(構造計算にあっては、地震に係る部分に限る。)に限る。)に適合するものであることを確認する方法	—	—	確認できる

(※) 備考欄に記入のない場合は、ISO(構造耐震判定指標)=0.6〔第1次診断法の場合は=0.8〕、Z(地域指標)=G(地盤指標)=U(用途指標)=Rt(振動特性係数)=1.0とする。